

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年8月20日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔いっぱいの子の幼稚園」
「心身ともに調和の取れた発育・発達と健全な人間性の基盤をつくる」
「強く かしく たくましい 感性豊かな 思いやりのある子の育成」
望ましい子どもの姿「自分の力で、元気に、仲良く、もうひと頑張りする子」

2. 本年度重点目標・計画

平成28年度4月1日より、幼稚園型認定こども園として新制度に移行し、8年目を迎えた。杉の子幼稚園に関わる全ての人が笑顔になる幼稚園をめざす。

- ・幼稚園教育要領の内容に沿い教育課程を見直し改善を図る……教育理念「つよく かしく たくましく」21世紀の国際化社会に羽ばたく子どもたちに情報処理能力を身に付けさせるため、幼児の実態に合わせた教育課程の編成にあたる。
- ・教職員の資質・指導力の向上（研修・情報共有等）……「子どもの《自分で・自分が・自分から》を大切にする」保育者としての専門性を高めるため、研修に積極的に参加する。公開保育を互いに見合い、子ども理解を深め指導力の向上に努める。
- ・特別支援教育のための園内支援体制を整備する（家庭との協力・連携も含む）……特別支援が必要な子どもを見逃さず、園全体で共通理解し、個に応じた関わりを心がける。
- ・危機管理対策の見直しと強化……定期的な安全点検や防災・避難訓練を実施する。子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える。子どもの命を守るため、食物アレルギー対応給食提供のチェック体制を徹底する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・この3年間新型コロナウイルスの感染拡大を予防するための取り組みを強化してきた。令和5年5月新型コロナウイルスが2類から5類に移行したことにより幼稚園の日常もコロナ前の生活に徐々に戻ってきた。子ども、保護者、教職員にとってより良い環境と活動運営を展開でき、順調に年度末を迎えることができた。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から、子どもたちの育ちにつながる体験活動を多く取り入れ主体的に楽しんで取り組めるよう年間計画から月案・週案、日案を具体的に立てている。また日々の保育の振り返りを行い次に生かせるようにしている。その結果、丁寧な保育ができ成果をあげることができた。
2	教職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	・保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づく研修会に積極的に参加している。 ・専門性や実践力を養うため、全クラスで公開保育を実施した。反省会では、具体的に子どもの姿を語り合うことで、確かな振り返りができた。日々の教育・保育の反省や振り返りを通して、先生たちが互いに学び合うことができた。 ・子どもたちに質の高い教育を提供するとともに、様々な教育課題に適切に対応するため、話し合いの機会を十分持ち互いの良さから学び教職員の資質と実践的な指導力の向上を図った。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	B	・全教職員が子どもの特性や保護者の思い等の情報を共有し、適切な支援を実施することができた。 ・特別支援が必要な子どもの状態や発達段階等に応じて、よりよい環境を整え、特別な配慮のもとに、今持っている力を精一杯発揮しながら、その能力を最大限に伸ばす保育・教育活動を行い、成果を上げることができた。 ・保護者のニーズを把握するために、個人面談や連絡帳でのやり取り、送迎時における会話などを大切にしてきた。また、必要に応じて専門機関と連携し個別の教育支援計画を作成、子どものつまずきに応じた支援を行うことができた。
4	安全管理体制の強化	B	・今年度から、通園バスに置き去り防止安全装置の設置と運転手のアルコールチェックが義務化された。ダブルチェックをすることで、今まで以上に安全安心な環境作りを行うことができた。 ・子どもたちの命と安全を100%保障するというのが、私たち職員の最も大切な使命である。そのためには、どんな手間も惜しまずチェック体制を整える必要がある。 ・幼稚園の施設・設備・遊具・用具等の安全点検を定期的を実施し、日常の中に潜んでいる危険の洗い出しに努めている。気になることがあれば課題を共有し、直ちに対策改善につなげている。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切にした質の高い教育・保育活動を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

5. 今後取り組むべき課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	コロナ禍での経験を生かしながら、行事及び活動の見直しを行い教育・保育の質の向上に努めていきたい。教育目標の実現に向けて、環境を生かした教育の中で子どもたちが主体的に活動できるように努める。日々の保育について、常に振り返り、見直していくことを続けていく。保育方針が定まり、実践につながるような教職員のサポート体制をつくりたい。 令和6年度10月に高知県私立幼稚園連合会主催公開保育研修会が本園で開催される。本園の研究テーマ「意欲いっぱいの子どもを育てる～友達や先生とのかかわりを通して～」を実践研究し、互いに刺激し合い自ら学び続ける保育者集団として、質の高い教育・保育を目指したい。全教職員で全園児を育てていくという職場内の同僚性・協働性・信頼関係を更に高めたい。研修会で学んだことを互いに共有化するとともに、各クラスで楽しかった保育の実践についても具体的に話し合い学びあう場を作っていきたい。 特別支援教育の理解を深め、個別の配慮をしながら発達の支援をしていく。その為、療育福祉センターや高知市教育研究所等関係諸機関と連携し、専門家の見解やアドバイスを受け、一人一人の子どもの育ちを見据えた援助について職員全員で共通理解に努める。特に年長児は、小学校と連携し滑らかで確実な接続ができるようにする。また、保護者と信頼関係を築き、その思いに寄り添いながら必要な情報提供を行い、きめ細やかな援助を行っていきたい。 南海トラフ地震に備え、様々な想定避難訓練を実施したり、災害時に予想される幼児の行動についても共通理解することが必要である。園庭の大型遊具は、冒険や挑戦、社会的な遊びの機会を提供し、子どもたちの成長に欠かせないものだが、冒険や挑戦には危険性も内在している。子どもたちが遊具遊びで高さ感覚や逆さ感覚を身に付け、危険回避能力を高めていけるように、保育者が見守り指導する必要がある。保育のいろんな場面で教職員は常にアンテナを高く張り、ヒヤリハットを感じた場面を逃さず、直ちに対策・改善祖講じるよう努めたい。

6. 学校関係者の評価

＜高知市立神田小学校長＞

コロナウィルス5類移行に伴い、感染対策をとりながら運動会・音楽会・修学旅行などの行事が制限されることなく開催できるようになり、学校に活気が戻ってきました。幼稚園を訪問し、子どもたちが先生や友達と触れ合い関わり合いながら遊んでいる様子を見て、ようやく本来のあるべき学びの姿が戻ってきているのを大変うれしく思っています。

神田小学校では、「すべての子どもに学ぶ喜びを」をテーマに、ICTを活用した教育の研究、実践に取り組んでいます。黒板の板書とパソコンの資料やビデオカメラ映像を表示した電子黒板を使い、児童に興味を持たせながら効果的に授業を進めています。また、国が進める「GIGAスクール構想」により児童一人一台タブレット端末が与えられ、急速に進むICT化に少しずつ慣れ親しんできている状況です。杉の子幼稚園では、「コドモン」という最先端のICTツールを取り入れ、園児の登降園管理や保護者との連絡、書類業務の作成等に活用しているとお聞きしました。事務の効率化や業務負担が軽減されることにより、これまで以上に子どもと向き合う時間が増え保育の質の向上が期待できます。少子高齢化が進み、学校教育がどんどん変わっていく中で、これからの幼児教育の選択肢の一つとしてICT教材を保育に取り入れてはいかがでしょうか。ぜひ、幼稚園での学びや育ちを、小学校につなげていく取り組みを協力して進めていきましょう。

＜令和5年度後援会長＞

杉の子幼稚園は、伝統的教育方針で保育されているところが魅力だと思います。杉の子幼稚園で3年間過ごした園児は本当に「強く賢くたくましく」元気いっぱいな子どもに成長していると感じます。時代と共に新しい課題が次々と起こってきますが、伝統は大切にしながらその時代に合った教育活動をこれからも続けてほしいです。

先日は、卒園式の練習に参加させていただきました。年長さんはきりっと自信に満ち溢れ堂々としていて、3年間杉の子幼稚園で立派に育ってきた成果が見られ感動しました。また、後ろに座っていた年中さんも、一年後は自分たちもこんなにかっこよくなるんだとキラキラした目で見ていたのが印象的でした。こうして良き伝統が受け継がれているんですね。私は、二人の子どもが6年間杉の子幼稚園でお世話になりました。幼児期に身に付けるべき力や心の成長の基礎をしっかり作っていただき、今後困難な場面に出会ったときにも、杉の子幼稚園で学んだことをもとにきっと乗り越えていけると確認しています。何よりも、私自身親としての土台をここで作っていただいたと感謝しています。園長先生はじめ先生方には本当にお世話になりました。

＜評議員/株式会社メディア・エーシー取締役会長＞

杉の子幼稚園を訪問するたびに、先生方はいつも明るい笑顔と元気な挨拶で迎えてくれます。そして、いつも感じるのですが、先生方の仕事に対する姿勢が前向きでとても気持ちがいいです。それは園長先生はじめ先生方が、お互いを認め尊敬しあっていることと仕事に対する満足度とモチベーションが高いからだと思います。

少子高齢化が進む中、園児数の減少が大きな課題となっていると聞きます。園児募集の鍵を握るのは、園長でも主任でもなく、保護者のニーズを一番よく知り、保護者との接点に立っている現場の先生方です。我々の企業では「従業員は、会社に扱われたようにお客様を扱う」「CS（顧客満足度）はES（従業員満足度）を超えることはない」これが鉄則です。企業の存続・成長のためには「お客様から選ばれる」ことは重要ですが、それと同時に「従業員から選ばれる」ことも大切だということを忘れてはなりません。幼稚園でいえば、現場の先生方がいかに楽しくやりがいのある職場にするのかにかかっています。イレギュラーな事がたくさんあって大変だと思いますが、先生方のモチベーションを高める継続的な取り組みを続けていただきたいと思います。

＜あたご幼稚園長＞

報告書の随所に「話し合い」「共有」「互いに刺激」といった職員間のチーム力に関わる文言が見られました。昨年度から、継続して「保育を語り合う」ということがなされ、いよいよ定着してきている様子を感じることができました。加えて『共有し全職員で全園児を育てていく』という強い意志が、今や、杉の子学園教育の根幹になっているようにも感じられました。子どもたちは、多くの目で見守られている安心感が基盤にあるからこそ、主体的に活動していけるのだと、常々思っています。その体制が見事に整った令和5年度であったことが推察されます。体験活動等もさぞかし意味深いものになったのではないのでしょうか。今後の課題に同僚性や協働性、信頼関係が打ち出されていましたが、現在既に十分な力としてお持ちになっているように思われます。この力が、「つよく、かしこく、たくましく」といった教育理念を日常の活動へ具体化させていく作業に活かされると、多くのことが線で繋がっていくのではないだろうかと期待してしまいます。

令和6年度は、いよいよ公開保育の輪番ですね。子ども・職員・参会者、みんなが笑顔になるような杉の子幼稚園らしい公開保育を楽しみにしています。